



特集 国際センターが提供する日本語教育

センターが提供する日本語教育とその概要

国際センターは、現在 1) 国際交流部門 2) 教育・支援部門 の二つの業務とこれらの活動を知らせる文書・広報室から成り立っています。今回は特に日本語教育に関してご紹介します。日本語教育は、従来の留学生センター「平成14年設立から平成17年12月に「国際センター」へと改組）からその業務を引き継ぎ今に至っています。（以下センターと記述）

実施している「日本語教育」は、①日本語研修コース（大学院入学前予備教育）②日韓共同理工系学部留学生予備教育（以下日韓と表記）③全学日本語コース（旧名称：補講）④全学共通教育「日本語・日本事情」です。また総合科学部の⑤「日本語教員養成に関する科目」の中で、「日本語教育方法論Ⅰ・Ⅱ」「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育演習/日本語教材研究」も担当しています。したがって、留学生と日本語教員を目指す学生（日本人と留学生）を対象に教育活動を行っています。3名の専任日本語教員が上記①・②と③そして④・⑤の三つに分け、2年ごとにコーディネーターとして担当し、各授業は3名が交互に関わるような配置をしています。

開設以来、今年で8年目を迎える日本語教育は、当初から全てのレベルで四技能（読む、書く、話す、聞く）の運用力を身につける、つまり「使える日本語」を目指すことを方針としています。もちろん、レベルやコースによって学習のねらいや到達目標に違いはありますが、日本語を知識としてではなく、日本で生活するためのコミュニケーションの道具とし、学習者が日本語を使って各人の目的が達成できることを考えた教育を実践しています。

日本語の授業以外にも、日本人と日本語で交流するために「地域・学生サポーター制度」や「国際交流サロン」さらには開放実践センターや共通教育共創型教育等の「公開講座」もご紹介します。

	全学 日本語コース	全学共通教育 「日本語1～8」 「日本事情Ⅰ～Ⅳ」 総合科学部 “日本語教員養成に関する科目”	日本語 研修コース
開講地区	常三島・蔵本	常三島	新蔵・常三島
入門 未習者	A1 A2		日本語 研修 コース
初級 前半			
初級 後半		B1 B2	
中級 前半	C1 C2		
中級 後半			
上級以上 日本語能力 試験1級 合格程度			日本語・ 日本事情

国際センター日本語コース一覧

日本語研修コース(大学院入学前予備教育)

このコースは、主に大学院に入学予定の学生（大使館推薦国費留学生と学内募集の留学生）を対象にした、約6ヶ月間（約400時間）日本語を学ぶ集中コースです。

本コースの目的は、学生が実際に日本語を使って大学内外で日常生活がおくれるようになることです。そのため、基礎的な日本語力（文字、文法、語彙など）はもちろん、日本の習慣やマナー、常識、日本人の考え方や日本人との接し方など、日本で生活し研究するのに最低限必要な言語力、考え方や行動の仕方を学びます。そのために本コースでは単に教科書を学習していくのではなく、国際センター独自の指導法を取り入れ、徳島でよりよい生活が送れるよう、総合的な教育を行っています。「話す・聴く」能力を伸ばすと同時に、「読む・書く」能力も育成し、漢字の学習も行います。

本コースを終了した学生は、基礎的な会話のできる段階（初級後半）、あるいは少し複雑な文を使ってコミュニケーションがとれる段階（中級前半）の日本語能力を習得することを目標としています。通常、一日約5時間の授業が行われ、その日に学習した内容の復習が宿題として出されます。

単なる言語の習得にとどまらず、言語と密接に関係している文化面の理解と適切な振る舞いについても学習します。例えば、身についた日本語能力を使って日本の家庭を知るホームステイをしたり、小学校を訪問したり、徳島を知る体験（脇町旅行や藍染め）をしたりします。

コース内で2回の筆記試験を行い、また終了時に自国紹介や自分の専門・研究に関するスピーチをし、確実に日本語を習得したかを評価します。



開講式



修了式



研修旅行（脇町）



書道



小学校訪問



ホームステイ



企業見学

全学日本語コース

本コースは、未習から上級までの日本語学習を希望する学生、研究者とその家族を対象とし、蔵本及び常三島の二つのキャンパスで実施しています。さらに希望者には、到達状況を判断し参加証書を発行します。他のコースと違って週2回（1回90分）で前期後期ともに20回と限られています。（平成23年度は前期：5月より7月、後期：10月より2月の間に各10週20回）

クラスとレベルは、初級A1、A2、B1、B2、中級C1、C2、上級D（年度によって開講）を蔵本・常三島キャンパスにて、受講者状況に応じて開講しています。



地域サポーターと

平成22年度の実践者は145名（前期68名・後期77名）、大学院生（修士・博士）および大学院進学を目指す研究生が主でした。

また学習者の平均年齢は20代後半から30代までで、研究の合間をぬっての日本語学習のため、授業以外に学習の時間を確保することや、実験等で毎回決まった曜日の出席も困難な現状があります。全学日本語コースは単位等の束縛もなく、日本語を学びたいという意欲をもった参加です。センターは、学習者の知的レベルに合わせた効果的な学習とその場を提供し、生活と研究を支える「使える日本語」の獲得を目指しています。

日本語・日本事情(全学共通教育)

全学共通教育の留学生用外国語・教養科目です。学部学生及び協定大学の交換留学生を対象に、目的別のさまざまな内容の上級レベルの授業を行っています。前・後期に12クラスがあります。

日本語 1・2

学部入学者対象の大学での生活や講義のための日本語力を養成する。

日本語 3・4

就職活動を踏まえ、「大学生としての日本語」ととどまらず、社会人として必要な日本語力と知識を身につけ「社会人のための日本語」の習得を目指す。

日本語 5・6

レポート・論文は勿論のこと、様々な文章を書くための表現力（語彙力・文法力・文章構成力）を身につける。

日本語 7・8

ドラマから現実に近い、社会の様々な場面とその人間関係によって変わる「日本語」、また非言語の要素（表情・声・動作）を理解する。



キャッチコピー発表会



日本事情Ⅰ(前期)

来日直後の留学生のための生活ハンドブック「徳島大学へようこそ」の作成を通し、徳島大学や地域への理解を深める。



日本事情Ⅰ
聞き取り調査

日本事情Ⅱ(後期)

徳島大学で学び、徳島に住むことを選んだ留学生に対して「徳島」を深く知ることを目的とし、「吉野川」をテーマにしたプロジェクトワークを行う。学内外の講師の講義も交えて吉野川をテーマに各自が発表を行うことを最終課題とする。

日本事情Ⅲ・Ⅳ

「視点論点(NHK)」を素材として、今の日本を取り巻く、国際・社会問題、事件等について学ぶ。各自の調べ学習や参加者の話し合いを通して、これからの日本のあり方を外国人である学習者から提言の形で原稿を作成し最後はまとめの発表を行う。

日本語教員養成に関する科目

「日本語教授法」・「日本語教育方法論」

総合科学部の日本語教員養成のための科目として、年度ごとに交互に開講しています。「日本語教授法」「日本語教育方法論」では外国語としての日本語教育の全体像をとらえ、様々な教授法を学び、さらに日本語を学習者の立場から見直し効果的な指導法を検討します。また刻々と変化する日本語教育の現状(国内外ともに)を確認することと、職業としての日本語教師の可能性についても受講者各自に問いかけています。

「日本語教育演習／日本語教材研究」

日本語学習がどのように進み、教育という枠組みの中で教師によってどのような働きかけができるのかを体験的に学ぶために、教育実習を行っています。今後の自分の将来と照らし合わせて、日本語教師への道や外国人との共生を考えるきっかけになったという声をこれまでの受講者から得ています。

国際化を進める活動

サポーター制度

センターには、日本語教育を支援する地域住民からなる「地域サポーター」と日本人学生からなる「学生サポーター」の登録システムがあります。サポーターは徳島大学で行われている全ての日本語授業の要請に応え、会話練習・スピーチ練習・タスク等の相手、ひらがなをはじめとする文字学習の支援、発表やプレゼンテーションの評価等いろいろな形でクラスに参加しています。またホームステイの受け入れ先としても対応しています。



サポーターとの活動

国際交流サロンー日本語でしゃべらんで



阿波踊り練習

日本語を通して日本や徳島の行事を地域及び日本人学生と学ぶ場として、毎年度5月から3月まで月1回土曜日に実施しています。センターの公開講座「国際交流ボランティア入門ー徳島に住む外国人を支援するとは」の修了生がつくるボランティアグループ「国際交流サロン JSS」と共催で行い、毎回平均40～50名の参加があります。今年度は、「餅つき」(5月)、「書道」(6月)、「阿波踊り」(7月)、「日本の遊び」(9月)、「茶道」(10月)、「お国紹介」(11月)、「華道」(12月)、「世界の料理」(2月)、「着物」(2月)、「雛飾り」(3月)を予定しています。

公開講座 (大学開放実践センター)

「国際交流ボランティア入門-外国人に日本語を教えるとは-」

日本語教育に関心のある人や徳島地域にいる外国人との交流を望む人を対象に開講しています。外国語としての日本語文法を知り、これまで自分たちが使ってきた日本語をとらえ直し、外国人にボランティアとして日本語を教える基礎を学習します。同時に日本語が十分に話せない外国人とどのように接し、どのように日本語で話しかけていくのかを学びます。



「国際交流の扉を拓く」(全学共通教育、共創型学習科目「学びのコミュニティ」)

学生及び社会人を対象に、後期に開講しています。私たちを取り巻く様々な文化を座学ではなく体感して学ぶことを目的としています。センターの3名の教員が協力してその専門分野からの働きかけによって、「若い世代との協力、さらに外国人と共生する社会を実現するには?」「日本語・日本語教育を通じた異文化理解とは?」といった課題を設定し解決のための意見を出し合う参加型の授業です。

最後に ～今後の展望～

日本語教育は、国際センターの事業の中核であることを確認し、また今後は留学生のみならず、留学生のパワーを生かして日本人学生の日本語教育、コミュニケーション教育にもかわりながら学内外の国際化を推進する役割を果たしていきたいと考えます。

日本語教育の各年度の内容に関しては、国際センター紀要(毎年3月発行)に詳細を載せています。

2011年度 徳島県日本語弁論大会結果

徳島県国際交流協会主催「2011年度外国人による徳島県日本語弁論大会」で武漢大学からの交換留学生王晋陶（おうしんと）さん（総合科学部）が最優秀賞に選ばれました。

（2011年7月19日 徳島新聞）



国際センター 日本語教員



大石 寧子 教授

全学共通教育・総合科学部専門科目
担当コーディネーター

oishi@isc.tokushima-u.ac.jp
088-656-9875 内線 6212



三隅 友子 教授

全学日本語クラス
担当コーディネーター

misumi@isc.tokushima-u.ac.jp
088-656-7120 内線 6214



橋本 智 准教授

日本語研修コース
担当コーディネーター

hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp
088-656-9872 内線 6213

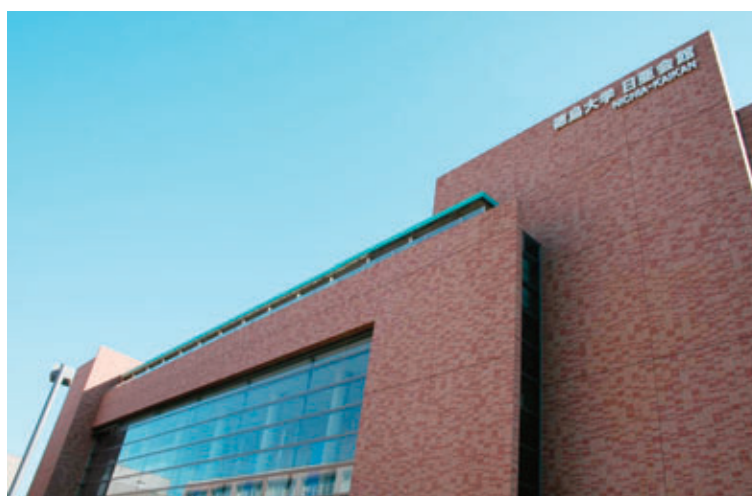
留学生のための生活ハンドブック「徳島大学へようこそ」 —最初の3週間 どうしたらいいですか

今年度前期の共通教育科目「日本事情Ⅰ」で、留学生のための生活ハンドブックを作成しました。「徳島を知る」をコースの目的とし、来日後3週間ぐらいまでは、まだ友人・知人もいなくて、生活を送るためのごく基本的な情報を得るのが難しいという留学生の声を元に、①店関係②アパートや携帯電話・インターネットの契約③交通④生活用品レンタルの項目をたてました。グループに分かれて、各項目についての調査、原稿作成、レイアウト、印刷業者とのやりとり等ハンドブック作成の全てを学生達が行いました。また要所所で、地域・学生サポーターや大学職員を交えて、情報の確認・聞き取りを行い、コメントやアドバイスをもらいました。今後、来日後の留学生オリエンテーションや海外での留学フェアなどで使われることになりました。



2011年度 主な活動

月	日	行 事 内 容
4	11	春期日本語研修コース開講式
	21	新入学留学生ガイダンス（常三島地区）
	22	新入学留学生ガイダンス（蔵本地区）
5	9	春期全学日本語コース ～7月15日
	14	国際交流サロン「日本語でしゃべらんでーお餅をついてみよう」
6	11	国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー書を楽しもう」
7	2	国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー浴衣を着て阿波踊りを踊ろう」
	14	藤井・大塚国際交流資金による奨学金受給留学生の寄付企業訪問 ～22日（計4回）
	24	ヘルスバイオサイエンス・サマープログラム（共催）～31日
	30	韓国文化体験研修（韓国 慶北大学）～8月5日
8	1	ソシオテクノサイエンス・サマースクール（共催）～5日
	2	外国人留学生奨学金授与式
	5	短期海外語学研修（中国 復旦大学）～9月1日
	19	短期海外語学研修（アメリカ 南イリノイ大学）～9月16日
	30	日本文化体験交流会（伊方発電所見学）～31日 短期海外語学研修（オーストラリア モナシュ大学）～9月27日
9	10	国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー日本の伝統的な遊び」
	12	春期日本語研修コース 修了式
10	6	秋期日本語研修コース 開講式
	15	国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー茶道を楽しもう」
	17	秋期全学日本語コース ～2月3日
	下旬	新入学留学生ガイダンス
11	上旬	多文化体験交流会
	12	国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー留学生の国への誘い」
12	10	国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー華道を楽しもう」
	下旬	実地見学研修旅行
1	上旬	スキー旅行
	21	国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー世界の料理を楽しもう」
2	4	国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー着物の歴史を学んで着てみよう」
	中旬	短期海外語学研修（ニュージーランド オークランド大学）
3	3	国際交流サロン「日本語でしゃべらんでーひな壇をかざろう」
	5	秋期日本語研修コース 修了式
	上旬	国際展開シンポジウム
		外国人留学生交流懇談会 短期海外語学研修（オーストラリア モナシュ大学）



発行日：2011年10月1日

発行 徳島大学国際センター
住所 徳島県徳島市新蔵町2丁目24
徳島大学地域・国際交流プラザ
(日亜会館) 2階
Tel. 088-656-7491
http://www.isc.tokushima-u.ac.jp